

平成 29 年度水稲・麦類・大豆奨励品種の特性表

平成 29 年 4 月
山口県農林総合技術センター

水稲

種 類	早 中 晩	品 種 名	来 歴 育成場所 育成年	採 用 年 度	試 験 地	移 植 期 月日	出 穂 期 月日	成 熟 期 月日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m ²	芒 の 多 少 ・ 長 短	草 型	穂 発 芽 の 難 易	脱 粒 性	玄 米					食 味	抵 抗 性						適 地	栽培上の留意事項等	概 評			
																腹 白 の 多 少	心 白 の 多 少	リ ッ ト ル 重 g	千 粒 重 g	収 量 kg/a		品 質	葉 い も ち	穂 い も ち	白 葉 枯 病	紋 枯 病	ご ま 葉 枯 病			カ ラ バ エ	倒 伏	優 点	欠 点
稷	早 生	ひとめぼれ	母 コシヒカリ 父 初星 古川農試 平成3年	平 10	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.26 8.11 7.28	9.2 9.18 9.6	86 88 81	19.5 19.8 19.3	416 397 478	やや 少・ 短	偏 穂 数	難	難	微	微	848 851 868	22.8 22.1 22.8	57.2 48.5 65.5	上 の 上 中	上 の 上	弱	弱	竹 弱	中	中	—	竹 弱	山間～中間 中庸田	耐倒伏性はやや劣るため、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、 白葉枯病弱 倒伏やや弱
		コシヒカリ	母 農林22号 父 農林1号 福井農試 昭和31年	昭 54	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.26 8.09 7.30	9.3 9.16 9.8	92 92 89	18.4 18.8 18.6	407 364 445	少・ 短	中 間	難	難	微	微	843 837 865	21.1 20.9 22.0	56.9 46.8 62.0	上 の 中 上	上 の 上	弱	弱	中	強	中	中	弱	山間～中間 中庸田 早植地帯	倒伏しやすいため、施肥・水管理に 注意する。特に、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、予防、適期 防除に努める。	食味極良 穂発芽難	いもち病弱 耐倒伏性劣 長稈
		晴るる	母 ヤマホウシ 父 コシヒカリ 山口農試徳佐分場 平成9年	平 9	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.29 8.12 8.2	9.7 9.20 9.12	85 86 81	18.9 19.0 18.8	404 375 460	無	中 間	竹 難	難	微	微	843 846 868	22.9 22.3 23.8	56.8 48.2 67.9	上 の 中 上	上 の 上	竹 弱	竹 弱	中	竹 弱	中	中	竹 強	山間～中間 中～肥沃田	いもち病、紋枯病の適期防除に努 める。 2次枝梗の熟れが遅れやすいた め、多肥栽培を避け、刈遅れに注意 する。	倒伏やや強 収量安定 良質 良食味	いもち病、 紋枯病やや弱
		日本晴	母 東海7号(ヤマヒコ) 父 幸風 愛知農試 昭和38年	昭 44	本場 分場	6.10 5.10	8.18 8.11	9.30 9.25	80 83	19.7 20.1	363 432	少・ 短	偏 穂 数	難	難	少	微	841 850	22.6 23.0	56.6 66.0	上 の 中 中	上 の 中	中	中	強	中	弱	中	竹 強	中間～平坦 肥沃田	葉色がやや淡いため、生育初期 の過肥に注意する。 ごま葉枯病にやや弱いため、砂質 浅耕土の秋落田、ごま葉枯病常発 田は避ける。	強稈 安定多収 白葉枯病強	ごま葉枯病 やや弱 秋落ち易
		きぬむすめ	母 キヌヒカリ 父 愛知92号(祭り晴) 九州沖縄農研センター 平成17年	平 21	本場 分場	6.10 5.10	8.20 8.13	10.1 9.24	82 77	17.4 18.0	355 365	希・ 短	中 間	中	難	微	微	833 849	21.8 22.1	57.0 64.0	上 の 中 上	上 の 上	竹 弱	中	竹 弱	中	—	—	竹 強	中間～平坦 中～肥沃田	初期の分けつ発生を促すため、 深植、深水管理を避ける。 籾数過多となると品質が低下する ため、極端な多肥栽培を避ける。 いもち病の適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、白 葉枯病やや弱
中 生	中生新千本	母 農林22号 父 隼 愛知農試 昭和25年	昭 42	本場	6.10	8.24	10.7	80	18.7	443	中・ 中	穂 数	中	中	中	微	862	23.3	57.1	上 の 下	上 の 下	中	中	弱	弱	弱	強	強	中間～平坦 中～肥沃田	分けつが旺盛なため、基肥減肥、 適切な水管理に注意し、過繁茂による 倒伏を避ける。 青枯れが発生しやすいため、過肥 にしない。	収量安定	白葉枯病弱 腹白多い 青枯発生し やすい	
	ヒノヒカリ	母 黄金晴 父 コシヒカリ 宮崎農試 平成元年	平 8	本場	6.10	8.24	10.7	87	19.0	374	希・ 短	偏 穂 重	難	難	微	微	855	21.7	55.7	上 の 中	上 の 上	中	中	弱	中	中	—	強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	やや長稈のため、多肥栽培しない。 外観品質が低下しやすいため、早 期落水をしない。 刈遅れるとうす茶米、胴割米が発 生しやすい。	良食味 登熟良好	1穂籾数が 多いと品質 変動が大き い	
糯	中 生	ミヤタマモチ	母 南海76号 父 みのたまもち 宮崎農試 平成2年	平 7	本場	6.10	8.23	10.7	82	19.6	278	少・ 中	穂 重	難	難	—	—	830	27.6	57.0	上 の 中	上 の 上	竹 強	竹 強	竹 強	中	—	—	強	中間～平坦 中～肥沃田	ふ先色が「黄白」のため、稈種との 混種に注意する。 1穂籾数の確保と登熟向上のため、 太植えや過肥は避ける。	良質多収 強稈	刈遅れると 糠色が濃く なる

(注) 1 奨励品種決定調査による
2 試験地は試験地は本場が農林総合技術センター（山口市大内）、分場が旧徳佐寒冷地分場（山口市阿東徳佐）
3 表中の値は農業試験場本場が平成24～28年の5カ年平均、徳佐寒冷地分場が平成10～18年の9カ年平均（「きぬむすめ」は平成16～18年の3カ年平均）

麦類

種類	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	播種期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m ²	芒の長短	株の開閉	脱粒性	播性程度	千粒重 g	容積重 g/L	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	抵抗性					栽培上の留意事項等	概評	
																			うどんこ病	赤かび病	縞萎縮病	倒伏	穂発芽		優 点	欠 点
小	ふくさやか	母 シラサキコムキ 父 シロガネコムキ 近中四農研センター 平成14年	平18	11.15	4.9	5.31	82	8.0	400	中	竹開	中	II	35.0	792	40.5	中の上	9.5	竹弱	竹弱	中	強	中	短稈で倒伏に強い、穂肥を中心に通常より施肥量を増やすことで増収をねらう。穂発芽性は「中」のため、適期収穫に努める。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。	早生、良質、多収 倒伏に強い 製めんの色と粘弾性優れる	穂発芽耐性が不十分 うどんこ病にやや弱い
麦	せときらら	母 A*9/B//A*9/B 父 A*9/B//A*9/C A:ふくほのかB:AC DomainC:北見 第63号 近中四農研センター 平成25年	平25	11.15	4.9	6.2	92	8.5	404	中	竹開	中	I	40.9	806	50.2	中の上	10.2	弱	強	中	竹強	強	過繁茂になると倒伏する可能性があるため、極端な早播きは避ける。子実タンパクが低くなる傾向があるため、開花期追肥の実施等により子実タンパク向上に努める	良質、多収 製パン性を高める遺伝子を持つ	子実タンパクがやや低い
裸麦	トヨノカゼ	母 四系9123 父 四国裸90号 近中四農研センター 平成17年	平22	11.15	4.3	5.21	87	5.3	385	竹長	竹閉	難	V	32.5	829	47.6	上 の 下	—	中	竹弱	竹強	竹強	竹難	湿害に強くないため、排水対策を徹底する。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。過繁茂になると、倒伏が多くなる。	強稈、多収	赤かび病にやや弱い
二条大麦	サチホゴールド	母 大系R4224 父 関東二条29号 栃木農試 平成21年	平26	11.15	3.29	5.18	91	6.4	548	竹長	竹閉	竹難	I	48.8	701	45.9	中 の 中	—	極強	竹強	極強	竹強	中	出穂が早く、凍霜害が発生する危険があるため、極端な早播きは避ける。排水対策、赤かび病の防除を徹底する。	良質、縞萎縮病に強い 醸造適性が優れる	側面裂皮の発生がやや多い

(注) 1 奨励品種決定調査による。ただし、数値以外の特性は育成地のデータによる。平成27、28年産の「ニシノカオリ」と「せときらら」には開花期追肥を実施。
2 表中の値は、24～28年産の5カ年平均。ただし、ふくさやかの子実タンパクは24～27年産の4カ年平均。

大豆

秋 夏 大豆 別	早 中 晩	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	試験地	播種期 月日	開花期 月日	成熟期 月日	生態型	主茎長 cm	分枝数 本/株	主茎節数 節	胚軸色	花色	子実				百粒重 g	リットル重 g	紫斑病抵抗性	蔓化の難易	倒伏の難易	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	用途	栽培上の留意事項等	概評	
															種皮色	臍色	粒形	大小											優 点	欠 点
秋大豆	中の晩	サチユタカ	母 フユカエンレイ父 エンレイ 九州農試 平成13年	平12	本場 分場	6.14 5.31	7.31 7.26	10.28 10.22	IIIc	51 53	5.5 7.6	14.7 15.8	紫	紫	黄白	黄	球	大の 小	34.3 33.9	756 —	強	難	難	36.6 37.4	上 の 下	46.1 45.2	豆腐 (味噌醤油)	莢数が少ないため、栽植本数を確保する(15本/m ² 程度)。播種が7月中旬以降となる場合、栽植本数を20～25本/m ² の密植とする。カメムシ防除を徹底する。ウイルス病に強くないため、黒大豆の隣接は場は避ける。	強莢、良質、多収、 紫斑病に強い。 成熟期の落葉が良い。 加工適性優れる。	やや少莢

(注) 1 奨励品種決定調査による
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)
3 表中の値は、本場は平成24～28年の5カ年平均。分場は、台風被害の大きかった平成16年を除く11～18年の7カ年平均